

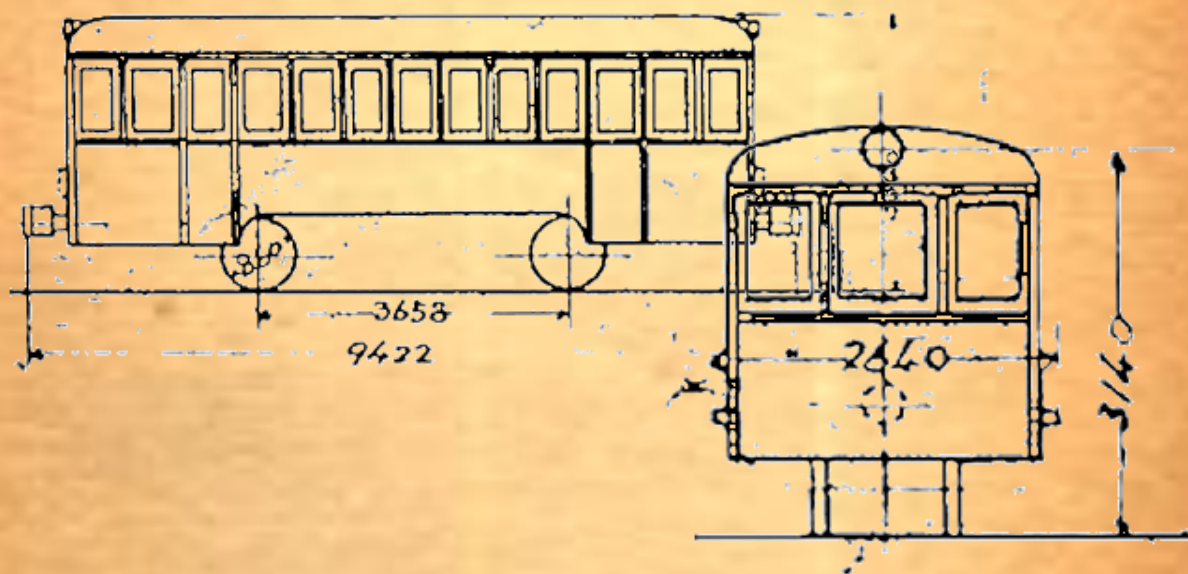
第9回企画展

鉄道の時代

明治～昭和初期の鉄道計画と石岡の先人たちに描いた夢

に描いた夢

水戸線「南線」/鹿島参宮鉄道(第1次)・霞浦鉄道/鹿島参宮鉄道(第2次)/水戸石岡電気鉄道/加波山鉄道



▲ 水戸電気鉄道株式会社 瓦斯倫客車前照燈取付位置変更認可申請に添付された図面 (国立公文書館所蔵)

8月30日▶11月27日

午前10時～午後4時30分 月曜休館
石岡市総社一丁目2番10号(石岡小学校敷地内)
電話 0299-23-2398

石岡市立
ふるさと歴史館

「町の繁栄のために！」 鉄道に夢を描いた先人たち



鉄道がもたらした驚きの時間短縮 「鉄道の時代」の幕が開く

明治22年、俳人・正岡子規は東京から水戸まで3日をかけて旅し、石岡では句も残しています。しかし、その4年前に開通した日本鉄道第二区線(現・東北本線)は、東京と古河とを約2時間で結んでいました。

当時の人々にとって、この鉄道の速さは驚異的だったに違いありません。東京や近郊への旅や荷物の輸送、農産物や商品の運搬、そして販路拡大にと、鉄道はなくてはならないアイテムになっていきます。人々がより豊かに暮らし、町全体も力強く発展していくため、先人たちはさまざまな夢を描き、鉄道計画に取り組みました。



企画展でご紹介する鉄道計画

明治時代

水戸線「南線」

大正～昭和時代

鹿島参宮鉄道(第1次)・霞浦鉄道

鹿島参宮鉄道(第2次)

水戸石岡電気鉄道

加波山鉄道

町に人と豊かさを招き入れた、夢の実現 あるいは、潰れてはかなく消えた夢

鉄道計画には、県内に名だたる商業都市・石岡を支える実業家たちのほか、教育者、政治家など、多くの人々が名を連ねました。この企画展では、自らの利害を超えて町の発展に力を尽くした人々の事績もご紹介します。



石岡市立ふるさと歴史館

入場無料

休館日 毎週月曜日

(月曜が祝祭日にあたる場合は、その翌日)
及び年末年始(12月28日～1月4日)

